

## 第2章. NPO法人にとってのNPO評価

これまで「評価」というと、外部からの「格付け」や「良し悪しの判断」、「ランキング」が想起され、評価される側は反発や反感をもつことが多い。

また、評価を行い、その結果を自らの改善等に活かすためには、データや情報の収集、蓄積、判定、そして、その分析等に、コストと手間が必要となる。

相対的に草創期にあるNPO法人は、「人」、「もの」、「金」、「情報」など様々な面に課題を有しており、“評価にコストと手間を割くよりは、活動に取組んだ方が良い。”という意識になりやすい。

また、NPO法人は、その設立目的や理念に基づく多様性や先駆性などがある活動こそがその特性といえ、それを単一の評価基準で測ることは不適切で、多様な主体が、それぞれの価値観に基づいて評価するというのが本来の姿である。

したがって「NPO評価」とは、その設立目的や理念を評価することではなく、個々のNPO法人がもつ設立目的や理念に照らし合わせ、効果的に活動がなされているのか等、“ある目標”や“あるべき姿”に向けて、その達成度はどうなのかを測るバロメーターとする、あるいは、“より高い成果や目標達成を実現するための指標”として活用していくことが、「NPO評価」の目的の一つと考えられる。

そして、「NPO評価」を通じて、自らの活動の改善に活かしていくという姿勢は、社会的な信任を得ていく、もしくは応えていく一つの姿勢の現れともいえるだろう。

また、NPO法人が「NPO評価」を行う意義や意味は、これだけに限らず、例えば、「NPO評価」を通じて、そのNPO法人に関わる人などにフィードバックを求めれば、その人たちとのコミュニケーションが深まるともいえ、さらには、今まで意図していなかった成果の発見や、今まで気が付かなかった活動のヒントが新しく発見できるなど、様々なメリットも期待できよう。